

湧水量の一時的な増加について

平成 25 年 2 月 12 日

独立行政法人 日本原子力研究開発機構
幌延深地層研究センター

平成 25 年 2 月 7 日（木）8 時頃から、深度 350m 調査坑道の掘削切羽において湧水量が増加した。そのため、地下施設からの排水量はこれまで 1 時間当たり最大 30 m³ 程度のところ、一時的に約 60 m³ まで増加した。

これまでも坑内において一時的な湧水量の増加が生じたものの、1 日程度で減少してきたことから、湧水量の推移を見守ることとした。

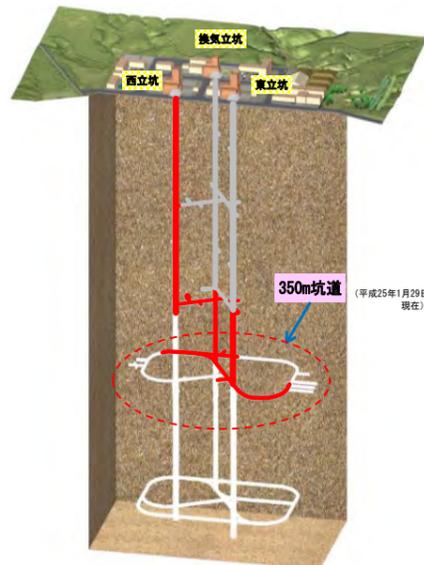
2 月 8 日（金）には 1 時間当たり 40m³ 程度まで減少したものの、更に湧水量を抑制するため、既往の調査ボーリング孔を閉鎖するほか、湧水箇所の近傍において新たにグラウト注入用のボーリング孔を掘削するなどの止水対策の準備を開始した。

2 月 9 日（土）から 350m 調査坑道の掘削切羽からの湧水を抑制するため、湧水箇所に導水管を設置するとともに吹付コンクリートを実施し、止水対策用のボーリング孔からグラウト注入を行い、現在継続中である。なお、現状の排水量は、1 時間当たり 30m³ 強である。今後さらにグラウト注入を継続し、湧水量の低減を図っていく。

北るもい漁業協同組合との協定上の 1 日当たりの排水量最大 750 m³ を超える排水は、掘削土（ズリ）置き場の浸出水調整池等に一時貯留している。

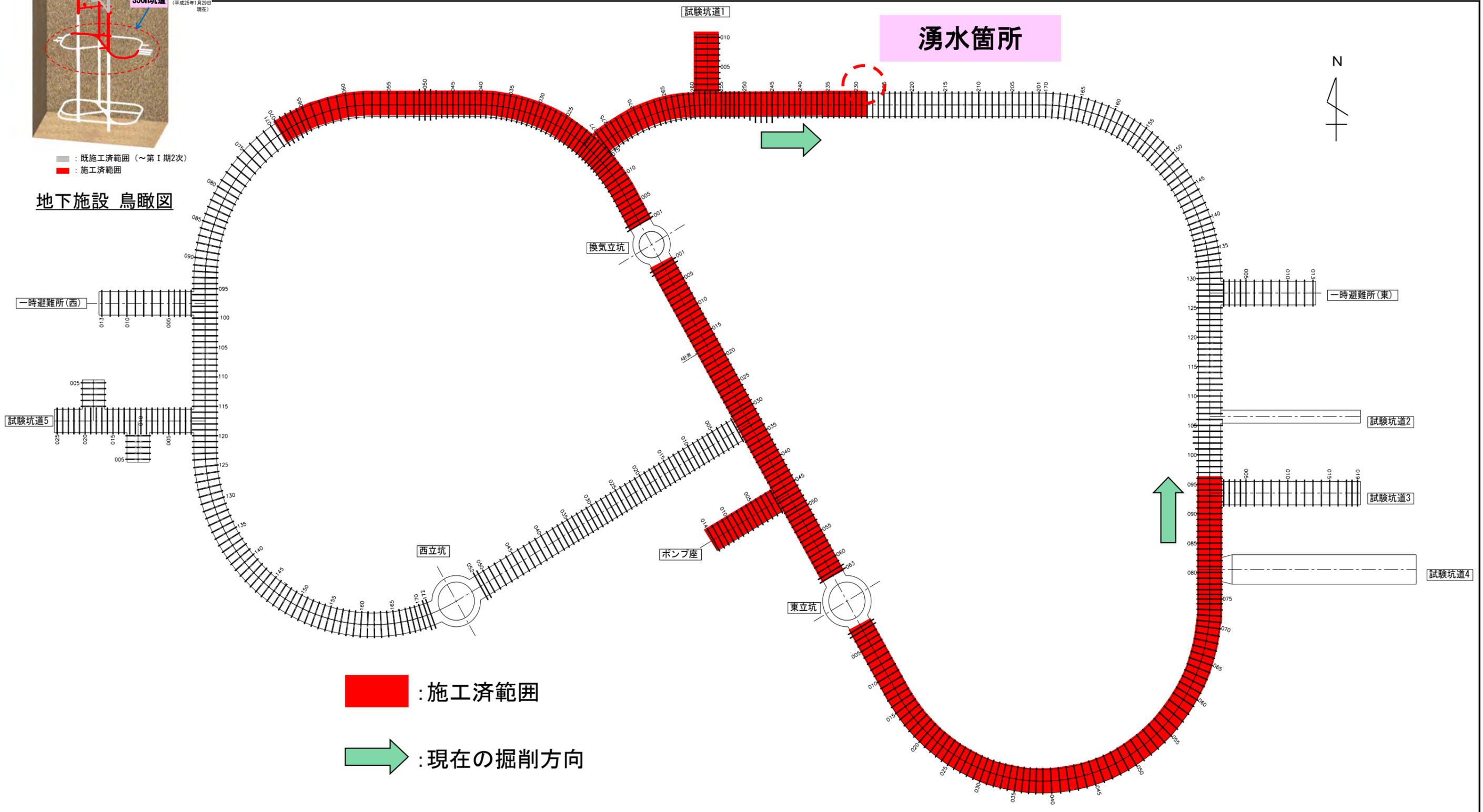
なお、本件による環境への影響はない。

以上



■ : 既施工済範囲 (~第1期2次)
 ■ : 施工済範囲

地下施設 鳥瞰図



350m調査坑道 平面図(湧水箇所)